

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 後藤隆徳

年月日 2008年02月24日(日)快晴

回数 第10回巡礼

参加者 37名(初参加者1名・現地2名)

巡礼寺・順 \* 三十四番札所 三養院(さんよういん)

\* 本尊・釈迦如来

\* 山号 千手山

\* 曹洞宗(昌溪院・末寺)

\* 草創・1501-21(文亀・永正年間)

\* 葦山の昌溪院を開山した、竺仙宗僧が創立、千手庵と称していた創立年代は不明ですが竺仙宗僧は永正八年に、没しているの、それ以前の文亀年間(1501-04)か永正年間(1504-21)の間と推測される、創立当時は別の場所であったが、後年現在地に移された。

\* 1590(天正十八年)下田城(現・下田公園)が豊臣秀吉の1万4千余の水軍に攻撃された、城主の清水上野介康英は妻と子の三人で逃れ、この千手庵に身を隠した三人を養いし故、三養院と寺号を改めたと云われる。

\* 「八功德」扁額(水戸黄門の師で、関羽將軍の末裔の筆)や、塗り駕籠、等が保存されている。

\* 三十五番札所 栖足寺(せいそくじ)

\* 本尊・釈迦如来

\* 山号 鳳儀山

\* 臨濟宗(鎌倉、建長寺・末寺)

\* 草創・1319(元応元年)

\* 河童の伝説があります

\* 後醍醐天皇の時代、下総・佐倉の城主、千葉勝政の三子、徳瓊覚照の開山、1363(正平十八年)足利氏の兵乱により、全て焼失する、その後再建するも、1854(安政元年)再び焼失現在の本堂は1886(明治19年)再建です。

\* 寺に保管されてる「河童の瓶」その昔、河津川に住んでいた河童が捕らえられたのを栖足寺の住職が助けてやり、そのお礼にと置いていった瓶で、川のせせらぎの音が聞こえてくると、云われる。

- \* 三十六番札所 乗安寺（じょうあんじ）
  - \* 本尊・十界曼荼羅
  - \* 山号 長運山
  - \* 日蓮宗（身延山、久遠寺・末寺）
  - \* 草創・1596-1615（慶長年間）
  - \* 伊豆八十八ヶ所霊場唯一の日蓮宗
  
- \* 縄地金山が採掘盛んな頃、縄地に身延山・久遠寺二十二世、日遠が創立した寺で後年、現在地に移された。
- \* 日遠が当時、徳川家康の居城であった、駿府城へ赴いた時、何が原因か家康の激怒を被り、斬罪に処せられる所を、家康の側室で日蓮宗の信者であった、お満の方の助命願いで許された、日遠はお満の方の生地、河津へ女駕籠で運ばれた、その駕籠が寺宝として保管されている。
  
- \* 三十七番札所 地福院（じふくいん）
  - \* 本尊・大日如来
  - \* 山号 玉田山
  - \* 曹洞宗（金沢、禅林寺・末寺）
  - \* 草創・不明
  
- \* 創立時代は不明ですが、縄地金山が採掘盛んな頃、平安時代と推察、当初は真言宗で金生院といった後年衰退し、1600(慶長五年)禅林寺二世、宣山宗随により再興し、曹洞宗・地福院と改めた。

距離 約 1 4 K m + 4 K m + 5 K m = 2 3 K m

タイム 下土狩 5 : 3 0 - 稲取・善應院 発 7 : 4 0 - ベロバ海岸 8 : 5 0 - 城山公園 鞍部 1 0 : 0 0 - 河津駅裏 1 0 : 1 5 小峯堂 1 0 : 2 5 - 三養院 1 1 : 1 0 ~ 2 5 - 河津サクラ公園（昼食） 1 2 : 2 0 ~ 1 3 : 2 0 - 栖足寺 1 3 : 4 0 ~ 1 4 : 0 0 - 乗安寺 1 4 : 1 0 ~ 2 0 - 地福院（お茶休憩） 1 5 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0 - 天城峠 三島 下土狩

温泉 今回温泉は入らなかった。

その他 法話・休憩（お茶・菓子）= 地福院（2 0 0 0 円）

1 0 回目の巡礼。トラブルはなく予定通り出発。今日も天気は素晴らしい。天城峠を越え、河津駅でトイレ時間。今、さくら祭り真っ盛りの河津だが、



今も静かに佇むお地蔵様

まだこの時間は閑散としている。

前回の終了寺、善應院で下田に引越した高橋コノ江さん、やはり下田の私の友人・鈴木さんと合流し、準備体操を済ませ出発。

少しR135号線を南下し、最初のカーブで右手の旧道に入る。急坂を抜けると峠でお地蔵様があった。下ると今度は等身大以上の大きなお地蔵様が佇んでいた。

鈴木さんの説明では、その昔、稲取と河津で「萱(かや)」争いがあったと言う。「萱」は屋根を葺く材料で生活必需品だった。

多分、死者も出たであろう、愚かな争いをいさめるため、ここに地蔵様を作った。が、私の推測だった。

周りの仏像の前でOさんが、「寛永通宝」みたいな古銭を発見した。このお地蔵様は、文化文政(1804年~1830年)の頃のもの。「寛永通宝」は、明治維新(1868年)後も使用されたとされるから、時代的にはうなずけると思います。

再び国道に出て、伊豆急行・朝日台トンネルの上を通過し、陸橋を渡り浜に下り少し休憩後、今井浜方面に向かう。気持ちの良い海岸線を歩いて行くと、看板があり「ペロバ海岸」と表記してあった。「ペロバ」が分らなかったが、鈴木さんの話では、この辺りに沢山いる「ペラ」(魚名)だそうだ。

今日も伊豆七島が良く見えた。地元の方の詳しい看板があり「利島」が表記されていた。ただ、これは年配の婦人の前で「としま」「としま」と連発しない方が無難と笑ってしまった。

トイレを済ませ、国道を行かず河津駅裏の城山との鞍部を目指し峠越えする。道が複雑で少し迷ったが、何とか駅裏に出られた。

冬の浜は静かでどこか淋しげだった



ここから三養院まで緩い上りが続く。この通りでは河津桜の原木が見られた原木は7分咲きでマズマズ辺りは多くの観光客で賑わっている。

途中、伊豆横道（よこどう）十四番札所・小峯堂で休憩。「横道」って時々聞か、これは一体何だろう？



河津桜原木

【横道】（よこどう）は、東海道などの要道とは異なった名もない小さな脇道のこと、昔の人々が無事平穏な人生を全うすることを願って旅した巡礼道です。平安時代、都の貴族の間では観音信仰が流行し、畿内の各地に祀（まつ）られた三十三の観音菩薩を巡る巡礼の旅が盛んに行われました。

これが有名な「西国三十三所霊場」ですが、後世になって、地方ではこれを模倣した小規模な巡礼道が設定され、横道のような巡礼の旅が庶民の間でも行われるようになりました。

横道は各地にいくつものコースがありますが、今回取り上げたのは身近にありながら、忘れ去られようとしている伊豆と駿河を結ぶ横道です。「両国横道」とか、巡る国名ずばりの「駿豆（すんず）横道」という呼び方で近年まで親しまれてきました。

特に盛んだったのは江戸時代で、路傍（ろぼう）の石像物の中に、巡礼の旅の成就を記念して建立した当時の「巡礼供養塔」が数多く見られます。

横道巡礼の旅の主人公は女性たちでした。忙しい農作業や家庭生活の中に苦勞して見つけた時間だったので、旅は彼女たちに与えられた一生に一度の自由と開放の機会でもあったようです。

数人から十人前後の「講（こう）」を組み、白い巡礼装束に身をかため、一向は



伊豆横道・十四番札所 小峯堂



横道を巡っています。

「両国横道」の旅の起点は三島の白滝観音堂。現在の白滝公園の地です。かつては千手観音が祀ってあったそうですが、明治時代に大中島(現在の広小路町)の常林寺に遷【うつ】し、以後は同寺が横道の一番礼所となっています。二番礼所は竹林寺(現在は法華寺)。コースは下田街道を下り修善寺を経由し、静浦に向かい駿河の国に入ります。最終の三十三番札所は霊山寺(清水市)です。

三島市HP「女性の旅と信仰から」



しばらく行くと右手に「秋葉山・常夜燈」があった。

11月25日も宇佐美で見たが、伊豆は確か2ヶ所しかないと聞いていたが、ここにもありました。道路沿いには、生々しい「猪の毛皮」が干してあり、左手、河津川沿いに「水神社」(すいじんじゃ)があった。

三養院に入る。住職は不在で若い坊さんが対応してくれた。ここで昼食を勧められたが、せっかくだから「さくら祭り」会場に向かう。会場は凄い人・人

でノロノロ歩行。桜はここ数日の寒気でまだ七分咲き。

河津川河原に下り1時間昼食休憩。出店の数も多く、中には河原まで、ビアを「出前」する店もあった。天気は良く、暖かくのんびり昼寝をしたかった。

次の栖足寺はすぐそこ。ここは「河童」伝説があり入



筏場・三養院

口に「銅像」があった。質素な本堂で読経。

助けてやった「河童」がお礼に置いていった、せせらぎが聞こえると言う「河童の瓶」は、予約すれば見せてくれるそうだ。

河津で三つ目の寺、乗安寺はすぐ近く。ここは境内もあるかなしかの小さな寺。また、伊豆八十八霊場では唯一の「日蓮宗」。話では「日蓮宗」は、他の宗派と不仲と聞くが、対応してくれた方は、親切だった。

今日最後の地福院に向かう。国道135号を少し歩き、右手の旧道に入る。山の友人が車で通過し、巡礼を目撃したと、携帯をして来た。毎回、これだけ車が通っていて、目撃情報は初めてだった。



地福院と住職

旧道はいい。ノンビリと海を眺め歩を進める。おしゃべりも尽きない。今日は行程も23Kmと長く、スピードを上げたため皆さんやや疲れ気味。

でも、思ったより早く寺に到着。先日下見の時は誰もいなかったが今日は住職が待っていてくれた。読経後、法話をお願いした。「追善供養」の意味・意義を分り易く話してくれた。

実はこの方、今日下田から参加してくれた鈴木さんの元同僚で、小学校の先生だったそうだ。来月訪ねる禅福寺が本寺で、普段はお父さんとそちらでお勤めをしているそうです。

昔、ここは「縄地金山」があり、人口も多くお寺も賑やかだったが、金山の衰退と共にお寺だけ残った感じと言う。

いただいたお茶とお菓子が疲れた体に実に優しかった。寺を辞するとき、住職は、いつまでも見送ってくれた。

今日はここでお終い。寺から国道に下りるとバスが待っていた。現地合流の高橋さんと鈴木さんとは、ここでサヨナラ。また、来月～。ご苦労様でした！

河津さくら祭りで帰路の混雑を考慮し入浴はなし。でも、思ったより順調に下土狩に到着でした。皆さま、長い一日、ご苦労さまでした。

合掌





地福寺にて



○さんの寛永通宝

